

2023（令和5）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅱ期

国語総合（近代以降）（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。
2. 問題冊子は18ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、受験番号をそれぞれ正しく記入してください。
4. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

| 解答番号 | 解答記入欄 |
|------|-----------|
| 1 | ① ② ③ ④ ⑤ |

5. 解答用紙に正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
9. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
10. 声を出して問題を読んではいけません。
11. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
12. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
13. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、後の問い(問1～8)に答えよ。解答番号は 1 12。

「コミュニケーション」の定義について説明をしようと思う。コミュニケーションには、非常に似た概念がいくつもあり、それらと何が異なるのかを考えながら進めていきたい。「伝える」と「伝わる」の違いである。

ひとつ目の比較対象は「インフォメーション」。辞書的な意味は「情報」で、動詞的に表現すれば「伝える」ということである。では、コミュニケーションは「情報を伝えること」とどう違うのだろうか。

^Aたとえば、ここに「謝罪」が必要とされるコミュニケーションの状況があったとしよう。何かしらの謝罪のメッセージを考えなくてはならない。読者の方なら「どんなメッセージ」を作成するだろうか。もつとも大事なことは、「相手が誰か」ということである。なぜなら、コミュニケーションとは、相手がいて初めて成立するものだからだ。相手が年上なのか、年下なのか。友だちなのか。恋人なのか。年上であれば、丁寧な言葉遣いで表現しなければならぬし、そもそも友だちと恋人では、^aアプローチが大きく違ってくるだろう。つまり、コミュニケーションとは「相手によって伝え方が変わる」という性質を持っているのである。

次に考えるべきことは「伝達手段」。たとえば、「メール」でそのメッセージを送るのか、「手紙を書く」のか。もしくは「電話」をかけるか、直接「相手に会いに行く」かなど、さまざまな手段が存在している。ここでのポイントは、まったく「同じ内容(情報)」だったとしても、「選んだ伝達手段によって伝わり方が変わる」ということだ。面と向かって言えば伝わったことが、同じ内容をメールで(ひょいっと)送ってしまったために相手を怒らせた、というような経験は読者のみなさんにもあるのではないだろうか。

まとめると、コミュニケーションは、まず「相手が誰か」をしつかりと認識し、その相手によって情報の伝え方を変える。次に、伝わり方を考えて伝達手段を選ぶ。これらを広告論的に言うと、「相手」のことを『ターゲット』と呼び、「伝達手段」のことを『メディア』と呼んでいるのである。

二つ目の比較対象は「プレゼンテーション」である。プレゼンテーションとは「説明」の意味であり、最近では日本でも企画を提案したり、意見を発表したりすることを「プレゼン」と略して使

うケースが増えている。では、B「コミュニケーションは「意見を説明すること」とどう違うのだろうか。」

説明とは、辞書では「事物が『何故なぜかくあるか』の根拠を示すもの」とされている。要するに、「論理性」が重要ということだ。では、論理とは何だろうか。200万部を超えるベストセラーとなった新書に『国家の品格』（新潮新書）があるが、著者の藤原正彦ふじわら まさひこが数学者ならではの視点で「論理」についてわかりやすく解説しているのも、それを参考に説明することしよう。

論理を単純化すると、AならばB、BならばC、CならばD……といった形で進む中で、この「ならば」という部分が「論理」である。この部分がヒ(ア)ヤク(イ)することなく、「A↓B↓C↓D↓……Z」と最終的に結論「Z」まで矢印がつながっていけば、論理的な説明であったということだ。

b、この中で一カ所だけ「論理的でない箇所」が存在している。それが、どこからも矢印がない出発点の「A」で、この部分がコミュニケーションを考える上でもっとも重要な部分なのである。それではこの「A」を選択させるものは何かというと、各自一人ひとりが持っている「情緒」である。どんな親に育てられ、どんな友人と出会い、何の小説や映画に触れて感動したのか。また、宗教や文化的慣習の違いなども、この情緒を形成することに影響を及ぼしているという。c、情緒とは論理以前の「その人の総合力」であり、それがいろいろな状況に人が(イ)ソウグウ(ロ)した際に、「どの前提から物事を考え始めるか」という出発点を決めるのである。

d、地球環境の問題を考えると、読者のみなさんなら次のどちらの意見に共感するだろうか。

「CO₂が増えるとなすべての国が影響を受けて深刻な状況に(ウ)オチイ(エ)ってしまう。(だから)これは『世界全体の問題』だ」

「そもそも先進国がずっとCO₂を(エ)ハイシユツ(イ)してきて、いまさら発展途上国に規制をかけるのは不公平である。(だから)これは『先進国の問題』だ」

この例題は、環境シンポジウムのような場で必ず議論となる実際の主張だ。基本的には、前者が「先進国」の、後者が「発展途上国」の主張であり、各々の主張は「だから」の前後で論理的にはつながっている。つまり、両方の主張は論理的に正しい説明ではあるが、議論の出発点が異なっており、それを選択するのがまさに各国の「情緒」の違いなのである。

ここでコミュニケーションとの比較に話を戻すと、プレゼンテーションは、結論「Z」の内容とそこまでの道筋を重要視するものであり、コミュニケーションとは、出発点「A」を見定める行為である。このように、実際の社会において互いの「C」をいくら競い合っても、本来は何の解決にもならない。なぜなら、数学や物理などの世界とは違い、実社会における「C」というのは「ひとつではない」からだ。法律を見ればよくわかるが、被害者の弁護はもちろん、どんなに(オ)キョウアク(イ)犯であったとしても、加害者の弁護をすることができるのである。

まとめると、私たちの暮らす社会において、結論までの論理的な正しさを「プレゼン」し合っても、どちらも正しい可能性がある以上、むしろ「争い」を（e）助長することになりかねない。つまり、「伝わらない」ということだ。大事なことは、「結論のすり合わせ」ではなく、相手の前提（出発点）を見極めて、相手と自分の「前提をすり合わせる」こと。それこそが、「コミュニケーション」ということなのである。

（伊藤剛『なぜ戦争は伝わりやすく平和は伝わりにくいのか』）

ピース・コミュニケーションという試み』より。本文中に一部省略したところがある。）

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) ヒヤク

- ① 彼の振る舞いには面目ヤクジヨたるものがある
- ② 思わぬサイヤクが降りかかってきた
- ③ 定期預金のカイヤクを検討する
- ④ 英国で人気のミステリーのホウヤクが出版される

(イ) ソウグウ

- ① 大型のスイソウで熱帯魚を飼育する
- ② 老教授は研究所のソウセツを訴えた
- ③ 追い詰められたせいかショウソウの色が見える
- ④ 山岳救助隊がソウナン者の救助に向かう

(ウ) オチイって

- ① 利益を社会にカンゲンするシステムを構築する
- ② 熱心な勧誘の前にととうカンラクした
- ③ 強豪校にカンゼンと立ち向かう
- ④ カンショウ材で段ボール箱の隙間を埋める

(エ) ハイシュツ

- ① 不用になった資料をハイキする
- ② 「お知恵をハイシヤクしたい」と頼まれる
- ③ 暴力ハイセキ運動が成果をあげる
- ④ 接戦の末、一回戦でハイタイした

(オ) キョウアク犯

- ① キョウハク状について調べる
- ② 全力で金融キョウコウを食い止める
- ③ 汚職事件のゲンキョウと目される人物
- ④ ファンのネツキョウがライブ会場を包む

問2 傍線部（a）「アプローチ」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①

〜④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 対象に向き合う前の準備。
- ② 互いに距離が接近していくこと。
- ③ 対象に迫っていく方法。
- ④ 目的とするものとの距離感。

問3 空欄 に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①〜④のう

ちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① b ところが c つまり d たとえば
- ② b そして c いわば d ちなみに
- ③ b しかし c なぜなら d だから
- ④ b すなわち c しかし d ところで

問4 傍線部（e）「助長」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①〜④の

うちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 手助けしたことで相手を害すること。
- ② 好ましくない傾向などを強めること。
- ③ 不必要な手助けとなること。
- ④ 発展や成長などを助けること。

問5

傍線部A「たとえば、ここに『謝罪』が必要とされるコミュニケーションの状況があったでしょう。」とあるが、筆者は「謝罪」を例にどのようなことを説明しようとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① インフォメーションは情報を「伝える」ことに主眼を置くが、コミュニケーションは情報に留^{とど}まらないメッセージが「伝わる」ことを目的とするため、相手に応じた伝え方と、伝わり方を考慮して伝達手段を選ぶ必要があるということ。
- ② インフォメーションは相手が誰であるかを問わないが、コミュニケーションは同じ反応でも相手との関係性によって相手の対応に対して自分が受ける印象は変わってくるということ。
- ③ インフォメーションは論理的な内容である必要があるが、コミュニケーションは相手があって成立するものなので、相手がどのような情報が必要としているかのほうが大事になってくるということ。
- ④ インフォメーションはどんな人にも等しく情報を正確に「伝える」ためのものだが、コミュニケーションは相手がどんな人であるかや自分との関係によって、伝え方や伝達手段がおのずと定まってくるものであるということ。

問6

傍線部B「コミュニケーションは『意見を説明すること』とどう違うのだろうか」とあるが、筆者はその違いはどこにあると考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 意見を説明することが、AならばB、BならばC、CならばD……といった形で結論を導いていくことであるのに対し、コミュニケーションは、意見の前提となる出発点の選択がそもそも妥当であったかどうかを見定める行為であるところ。
- ② 意見の説明においては、最終的な結論の内容が論理的に破綻することなく導かれたものであるかどうかが重要であるのに対し、コミュニケーションにおいては意見を説明するという行為自体に意味があると考えているところ。
- ③ 意見の説明では、結論が先にあり、結論に至る道筋が論理的に正しいことが重要視されるが、コミュニケーションでは、双方の主張が平行線にならないように、相手の出発点を見極めて自分と相手の前提をすり合わせるところ。
- ④ 意見を説明するというのは、AならばB、BならばC、CならばD……と結論に向けて根拠を示す形をとっていることを言い、その道筋が論理的に正しいものであるかどうかを見定める行為がコミュニケーションであるところ。

問7

空欄 (二箇所) に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 論理的でない箇所
- ② 議論の出発点
- ③ 論理的な正しさ
- ④ 『情緒』の違い

問8

この文章の展開・内容についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は12。

- ① インフォメーションとの相違点から、コミュニケーションは相手がいて初めて成立するものであることを示した上で、プレゼンテーションとの相違点から、コミュニケーションが相手との争いを回避するために有用な手段であることを示し、現代社会において身につけることが求められる能力であることを主張している。
- ② コミュニケーションとは何かについて、インフォメーションやプレゼンテーションとの比較を通して、相手が誰かをしっかりと認識して相手に合わせた情報の伝え方、伝わり方を考えた伝達手段を選び、意見の前段階にある双方の「情緒」を見極め、認識を確認し合うことであると明らかにし、現代社会におけるその意義を示している。
- ③ コミュニケーションと、インフォメーションやプレゼンテーションという混同されやすい概念の相違点をわかりやすい例を挙げて説明することで、情報も伝達手段もあふれ、ともするとそれらに流されてしまいがちな現代社会における、人と人との深いコミュニケーションの大切さを訴えている。
- ④ コミュニケーションという話題を最初に挙げ、読者への問いかけを交えながら、意味の近いインフォメーション、プレゼンテーションという二つの概念との共通点と相違点を説き明かすことで、現代社会において三者を使い分ける必要性を明らかにし、コミュニケーションの果たす役割について論じている。

ある日、友人と食事をしているときだった。話が絵画に及ぶと彼は、急に思い立ったようにこういった。

「(注1) セザンヌの画を美術館で見なくてはならないのが現代だからね」

こちらの怪訝けげんそうな顔を見ると、次のように言葉を継いだ。

風景を題材にしたセザンヌ（一八三九～一九〇六）は、しばしば野外で絵を描いた。一枚の絵を仕上げる時も野外だったことは少なくないはずだ。しかし、彼は自然の光のなかで描かれたものを、自分たちは人工的な照明の下でしか見ることができなくなっている。セザンヌが画えがいた作品にふれることはできるが、Aセザンヌが世界に感じた感動を果たして自分たちは、わずかも感じられているのだろうか、というのだった。

美術館で画を見ても無駄だ、と彼は言いたかったのではない。むしろ、この人物は、その役割を深く認識し、美術館に深く関係する仕事に従事している。だが、最近の美術館は、画を演出することばかりに関心があって、「見る」とは何か、美の経験とは何かを問うことを忘れていてはないか、というのだった。

もちろんその場でも、セザンヌの絵を日の光の差し込むところで見るような経験はなかなかできないという話になった。「でもね」と彼は言い、こう続けた。

「たしかにぼくらはセザンヌの作品を見ることはできない。でも、ほかの美しいものなら自然の光のもとで見ることができる。たとえば……」と言って彼は靴かばんから愛用している小さな器を差し出した。掌てのひらに収まるほどの小さな器を彼はいつも傍らに持ち歩くのだという。それで酒を飲むこともあれば、手にもち、じっと眺めていることもあるという。

このとき、さらに進んで、私たちは「物」をどう認識するのか、というところに話が及んだ。「物」は確かに存在する。しかし、それを認識するとき人は、どうしても光の働きを必要とする。さらにいえば、美を現出させているのは光ではないのか。美の経験とは、「物」と人が交わるところに生まれるのではないか。絵であれ、（2）陶器であれ、書画であれ、どんな光のもとで見るとよって印象はまったく異なる。同じ瞬間が二度とないように、同じ光は二度と差すことはない。芸術にふれるとは、どこまでいっても、その場一回限りの出来事であるはずだ。芸術家たちは、できる限り光の助力を得られるようにと願いながら、作品をつくるのではないか、というところで話は落ち着いた。

これらの話がじつに印象深かったのは、美の経験をめぐる B な発言だったからだけではない。それは文学や哲学の経験においても同じではないかと思っただけだった。彼が大切な経験を静

かに語る姿を見ながら、骨董は知らないのだが、そういえば自分は本をそのように思うことがある、と思いついた。

骨董のような **C** な価値がある本をいうのではない。何十回と読んで、付箋だらけになり、ほつれも出始めた文庫本のことを思ったのだ。骨董と本が同じだということではない。本には本の世界があるように、骨董には骨董にふれたものにしかわからない世界があるに違いない。だが、そこにコトバを「読む」ことにおいては、同質の経験があるのではないかと思った。

本があり、時間があればそれを読むことができる、というのは **D** な事実には過ぎない。文字を追うことと「読む」ことはまったく異なる経験である。「読む」ということが本当の経験になるためには書物を読むときにも「光」を必要とする。それは書物を照らす **E** な光線とはまったく違う、私たちの内から湧き上がる内なる光である。

美の経験においても同じである。(注2) 岡倉天心はそれを英語で書いた『茶の本』で、inner light (内なる光) あるいは spiritual light (霊光) とすら呼んだ。

人間は、内なる光によって照らされた、二度と繰り返すことのない叡知との (a) 邂逅、それをさまざまなコトバによって世界に定着させようとしてきた。それが「書く」ことなのである。

このとき、「書く」とは、コトバを語るのではなく、むしろ、コトバが自ら顕われ出る、その通路と化すことになる。また、「読む」とは、言葉を超えて、その奥にあるコトバに出会うことになる。

ここで考えているのは、専門的、研究的に「読み」、「書く」人々のことではない。むしろ、市井の人間における「読む」とことと「書く」ことの可能性である。

真実の美は、芸術家を作る豪華な「芸術品」にあるのではない。民衆によって作られた「民藝」に宿っていると、(b) 柳は考えた。同じことは言葉をめぐっても考えられる。真に人間の魂を揺り動かすようなコトバは、芸術家やその世界の (c) 権威を目指す者によってではなく、日常に深く根を下ろして生きている市井の人々によって実現されるのではないだろうか。

今、かつてに比べると「読む」者が減っている。「書く」者は言うまでもない。

ここで「読む」とは、記された文字を情報として取り込むことではない。コトバを (ウ) 媒介として、書いた者と対話することである。さらにいえば新しいテキストを「創造」することである。

書かれた言葉は、読まれることによってコトバとなる。たとえばここに(注3) ドストエフスキー (一八二一〜一八八一) の『罪と罰』がある。この本が真に小説としてよみがえるのは、(エ) 真摯な読者によって読まれたときである。そのコトバはすでに作者であるドストエフスキーの経験を超えている。小説は、読まれることで (オ) 変貌してゆく。小さな種子から樹木が育つように姿を変じてゆく。

F 「書く」とは、コトバを通じて未知なる自己と出会うことである。「書く」ことに困難を感じる人は、この本のなかで引用されている先人のコトバを書き写すだけでもよい。もし、数行の言葉を本当に引き写したなら、その人は、意識しないうちに文章を書き始めているだろう。そして、こんなコトバが自分に宿っていたのかと、自分で書いた文章に驚くに違いない。自分の魂を、真に揺るがすコトバはいつも自分から発せられる。人は誰も、コトバという人生の護符と共にある。コトバは見出みいだされるのを待っているのである。

よく書けるようになりたいなら、よく読むことだ。よく読めるようになりたいければ、必死に書くしかない。よく読むとは多く読むことではない。むしろ、一節のコトバに存在の深みへの通路を見出すことである。

(若松英輔『生きる哲学』より。本文中に一部改変したところがある。)

- (注)
- 1 セザンヌ —— 後期印象派を代表するフランスの画家。
 - 2 岡倉天心 —— 明治時代の美術界の指導者(一八六二～一九一三)。
 - 3 ドストエフスキー —— ロシアの小説家。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

- | | | | | | |
|-----|---------------------------------|--------|----------|--------|--------|
| (ア) | <input type="text" value="13"/> | ① しつき | ② とうき | ③ かんき | ④ じき |
| (イ) | <input type="text" value="14"/> | ① けんい | ② けんりよく | ③ けんせい | ④ けんり |
| (ウ) | <input type="text" value="15"/> | ① ばいたい | ② ちゅうかい | ③ ばいかい | ④ はいたい |
| (エ) | <input type="text" value="16"/> | ① しんそつ | ② まことしやか | ③ まつとう | ④ しんし |
| (オ) | <input type="text" value="17"/> | ① へんしん | ② へんよう | ③ へんぼう | ④ へんてん |

問2 傍線部(a)「邂逅」と似た意味を表す和語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① ひらめき ② めぐりあい ③ いざない ④ すれちがい

問3 傍線部(b)「柳」とは、民衆の生活の中で使われてきた、手仕事による日用品の中に美を見出して「民藝」という美の概念を提唱した柳宗悦やなぎむねよしのことである。柳は、文芸雑誌『白樺』の中心メンバーの一人としてその創刊にも加わったが、同様に『白樺』の創刊に参加し、白樺派の作家とされる人物と、その人物の作品として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ・ 。

- ・白樺派の作家
- ① 横光利一 ② 志賀直哉しがなおや ③ 小林多喜二 ④ 島崎藤村しまざきとうむら

- ・その人物の作品
- ① 『蟹工船』かにこうせん ② 『若菜集』 ③ 『城の崎にて』きのさきに ④ 『日輪』

問4 傍線部A「セザンヌが世界に感じた感動を果たして自分たちは、わずかでも感じられているのだろうか」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

① 画を演出することばかりに関心がいっている美術館では、野外の自然の風景を描いたセザンヌの素朴な絵を見ても、演出が鑑賞を邪魔してしまうので、セザンヌの絵の真価はわからないのではないかと、ということ。

② 自然の光の中で描き、完成させたセザンヌの絵であるからこそ、美術館ではなく、セザンヌが制作していた環境と同じ条件下で見ればはじめて、セザンヌの絵の素晴らしさが感得できるのではないかと、ということ。

③ 野外で描き、仕上げたセザンヌの絵を美術館の人工的な光の下で見ても、自然光のもとでセザンヌの目に映った対象の本当の色彩は伝わらないので、セザンヌの絵は美術館での鑑賞に向かないのではないかと、ということ。

④ 野外の自然の光の中で描いたセザンヌの絵は、美術館の人工的な照明の下ではなく、自然光の下で見なければ、セザンヌにその絵を描かせた何かを感じ取ることはできないのではないかと、ということ。

問5 空欄 B E に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | B | 歴史的 | C | 物理的 | D | 根源的 | E | 表層的 |
| ② | B | 根源的 | C | 表層的 | D | 歴史的 | E | 物理的 |
| ③ | B | 歴史的 | C | 表層的 | D | 物理的 | E | 根源的 |
| ④ | B | 根源的 | C | 歴史的 | D | 表層的 | E | 物理的 |

問6

傍線部F『書く』とは、コトバを通じて未知なる自己と出会うことである。」とあるが、
どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解
答番号は 23。

- ① 人は誰でも、見出されるときが来るのを待っているコトバを内に宿しており、そのコトバを見出すことで新たな自分という存在を認識するきっかけを与えてくれるのが「書く」ということであるということ。
- ② 人は「書く」ことによって内なる光で自分自身を見つめなおす契機を得るのであり、それをきっかけとして、自分でも驚くようなコトバを発する、今までと違う自分になっっていくということ。
- ③ 人は誰でも、発したときに自分でも驚くような、自分の魂を真に揺さぶるコトバを宿している存在であり、「書く」という行為を通してそのようなコトバ自身が発現するものであるということ。
- ④ 人は「書く」ことによって内から湧き上がる内なる光を獲得するのであり、その光で照らすことによって、自分の中に眠っている、自分自身の魂を真に揺るがすコトバを見つけ出すことができるということ。

問7 筆者の主張の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番

号は 24。

① 「読む」ことが本当の経験となるには私たちの内から湧き上がる内なる光を必要とし、そのように読まれることによって、書かれた言葉は、魂を揺り動かさうるコトバとなる。だからこそ、よく書けるようになりたいならよく読むべきであり、よく読むとは一節のコトバに存在の深みへの通路を見出すことである。

② 「読む」というのはコトバを仲立ちとして書いた者と対話することであり、書かれた言葉は読まれることによってコトバとなるので、真に人間の魂を揺り動かすようなコトバも、「読む」ことと「書く」ことの間に関係することになる。よって、よく読みよく書くことによってしか、そのコトバを見つけて出すことはできないのである。

③ 「書く」というのは、コトバを語るのではなく、コトバが自ら顕われ出てくる通路と化すことであり、「読む」とは、その通路を通じて顕われてくるコトバを着実に情報として取り込むことである。だからこそ、よく読むことでよく書けるようになり、必死に書くことでよく読めるようになるのである。

④ 真に人間の魂を揺り動かすようなコトバが、芸術家のような言葉に敏感であるとき現されている存在によってではなく、日常に深く根を下ろして生きている人々によって実現されるためには、よく読むことでよく書けるようになり、必死に書くことでよく読めるようになる、ということを確認し、それを実践するしかない。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は ～ .

問1 次のア～ウの文の説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ .

ア 自分の能力を信じることで生まれる誇り。

① 傲岸 ② 自賛 ③ 矜持 きょうじ ④ 慇懃 いんぎん

イ あれこれと考えて悩むこと。

① 辛苦 ② 懷疑 ③ 腐心 ④ あくせく 齷齪

ウ 他の人の気持ちを推し量ること。

① 邪推 ② 付度 そんたく ③ 考慮 ④ 得心

問2 次のア～ウの意味を表す語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ .

ア 持続可能である。

① フレキシブル ② サステナブル
③ リターナブル ④ インタラクティブ

イ 思い切った。徹底的な。

① ドメスティック ② サディスティック
③ ドラステイック ④ パセティック

ウ 逆説。

① アンチテーゼ ② セオリー ③ オブジェクション ④ パラドックス

問3 次の各文のうち、敬語の使い方の説明として誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は .

- ① 「いただく」は、「食べる」「もらう」の謙譲表現である。
② 「うかがう」は、「来る」「行く」「聞く」の謙譲表現である。
③ 「存ずる」「存じ上げる」は、「知る」「思う」の尊敬表現である。
④ 「お（ご）になる」「お（ご）なさる」は、尊敬表現である。

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「どうか忘れ物をなさいませんように。」
- ② 「昨日、先生のお姿を拝見いたしました。」
- ③ 「うちの社長が今後ともよろしくとおっしゃっております。」
- ④ 「お目にかかりたいと考えておりました。」

問5 次の各文の傍線部のうち、他と品詞が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 大会には全国からいろいろな人が集まった。
- ② 大きな希望をもって旅立つ。
- ③ きれいな花が咲き、庭が華やぐ。
- ④ おかしなことには臆せず声をあげる。

問6 次の各文の傍線部（感動詞）のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① ねえ、今度サッカーの試合を見に行かない？
- ② ええ、いつでもいいですよ。
- ③ さあ、これから何をしようか。
- ④ やあ、久しぶりに会ったね。

問7 次の各文の傍線部の「そうだ」のうち、他と用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 今日は天気が不安定だそうだ。
- ② 図書館の移転が決定しそうだ。
- ③ 日時指定の事前予約が必要だそうだ。
- ④ 当事者による記者会見が行われるそうだ。

問8 次の慣用句と意味の組合せが誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

号は 36。

- ① 腹を据える | しっかりと覚悟を決める
- ② 鼻にかける | つれない態度をとる
- ③ 耳にさわる | 聞いて不快に感じる
- ④ 口をぬぐう | 知っていても知らないふりをする

問9 次の四字熟語のうち、「手がかりもない状況において、物事を探し求めること」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

37。

- ① 孤軍奮闘
- ② 右往左往
- ③ 暗中摸索
- ④ 乾坤一擲 けんこんいってき

問10 次の四字熟語のうち、「世の中は移り変わりが激しく、はかないものである」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

38。

- ① 有為転変
- ② 行雲流水
- ③ 廣大無辺
- ④ 会者定離

問11 次の故事成語のうち、「疑われやすい言動はさけたほうがよい」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

39。

- ① 画竜点睛 がりようてんせい
- ② 覆水盆に返らず
- ③ 隗より始めよ かい
- ④ 李下に冠を正さず りか

2023年度 一般選抜Ⅱ期 国語 正答例

| 大問 | 解答番号 | 正解 |
|----|------|----|
| ㊦ | 1 | ① |
| | 2 | ④ |
| | 3 | ② |
| | 4 | ③ |
| | 5 | ③ |
| | 6 | ③ |
| | 7 | ① |
| | 8 | ② |
| | 9 | ① |
| | 10 | ③ |
| | 11 | ③ |
| | 12 | ② |
| ㊧ | 13 | ② |
| | 14 | ① |
| | 15 | ③ |
| | 16 | ④ |
| | 17 | ③ |
| | 18 | ② |
| | 19 | ② |
| | 20 | ③ |
| | 21 | ④ |
| | 22 | ④ |
| | 23 | ③ |
| | 24 | ① |

| 大問 | 解答番号 | 正解 |
|----|------|----|
| ㊨ | 25 | ③ |
| | 26 | ③ |
| | 27 | ② |
| | 28 | ② |
| | 29 | ③ |
| | 30 | ④ |
| | 31 | ③ |
| | 32 | ③ |
| | 33 | ③ |
| | 34 | ② |
| | 35 | ② |
| | 36 | ② |
| | 37 | ③ |
| | 38 | ① |
| | 39 | ④ |